

地域の拠点病院を目指して — 消化器・一般外科の取り組み —

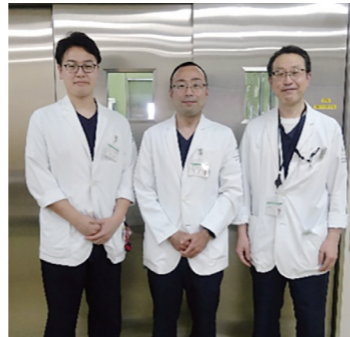
消化器・一般外科では、胃癌、大腸癌を中心とした消化器癌から、鼠径ヘルニア(脱腸)、胆石胆嚢炎、虫垂炎、肛門疾患、腸閉塞等の手術を行っています。

術式の選択では、低侵襲手術である腹腔鏡下手術を最優先とする方針で臨んでいます。消化管吻合時や急性胆嚢炎手術の際には、臓器血流や胆道系を可視化できる近赤外線(IR)機能を有する腹腔鏡を積極的に用い、縫合不全や胆道損傷などの合併症予防を心がけています。

最も注力している消化器癌の治療では、迅速に対応するため地域医療機関の先生方からご紹介後1か月以内に手術を施行できるようにしています。手術に加えて抗癌剤治療も当科で施行し、集学的治療による治療成績の向上に努めております。人工肛門(ストーマ)を造設する場合は、本人やご家族へのストーマケア習得に加え、訪問看護を積極的に依頼して在宅での患者支援を行っています。周術期には、ADL低下予防のためがんリハを導入しております。また、緑区歯科医師会のご協力の元、周術期口腔ケアを開始いたしました。

近年当科で増加傾向にあるのは、鼠径ヘルニアや直腸脱などの加齢に伴う疾患です。腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術や腹腔鏡下直腸固定術など根治的手術を基本としつつ、耐術能に制限のある方にも麻酔や術式を工夫しながらできる限りの治療を行っています。

地域の拠点病院として、患者さんや地域医療機関の先生方に貢献できるよう努めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

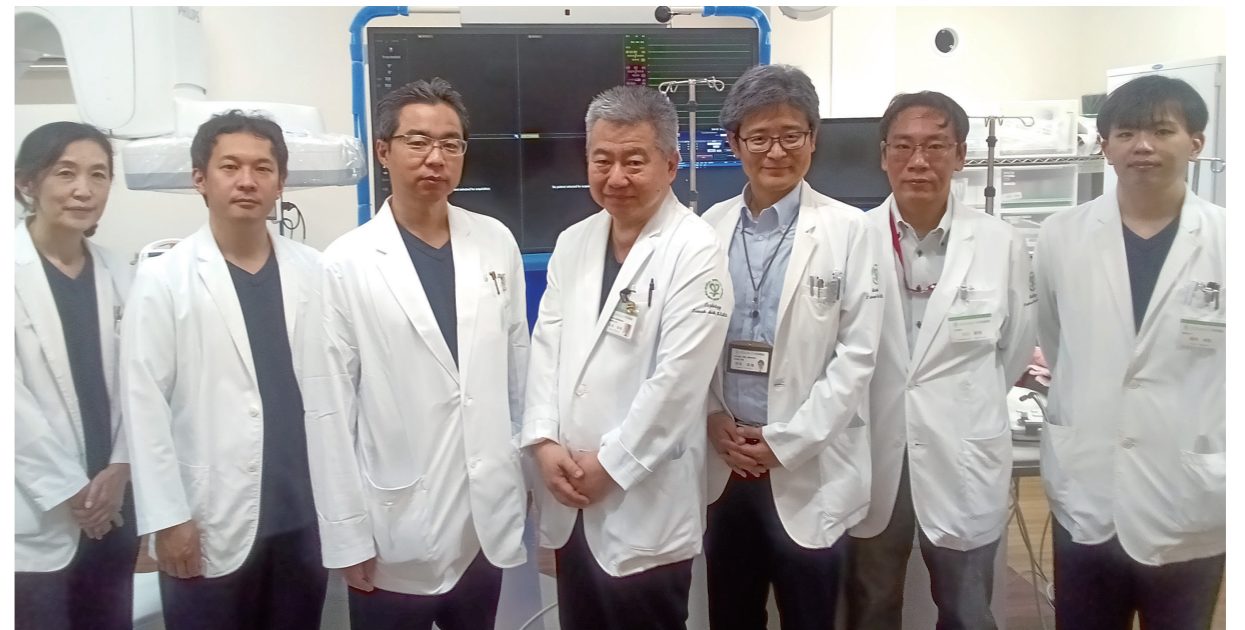
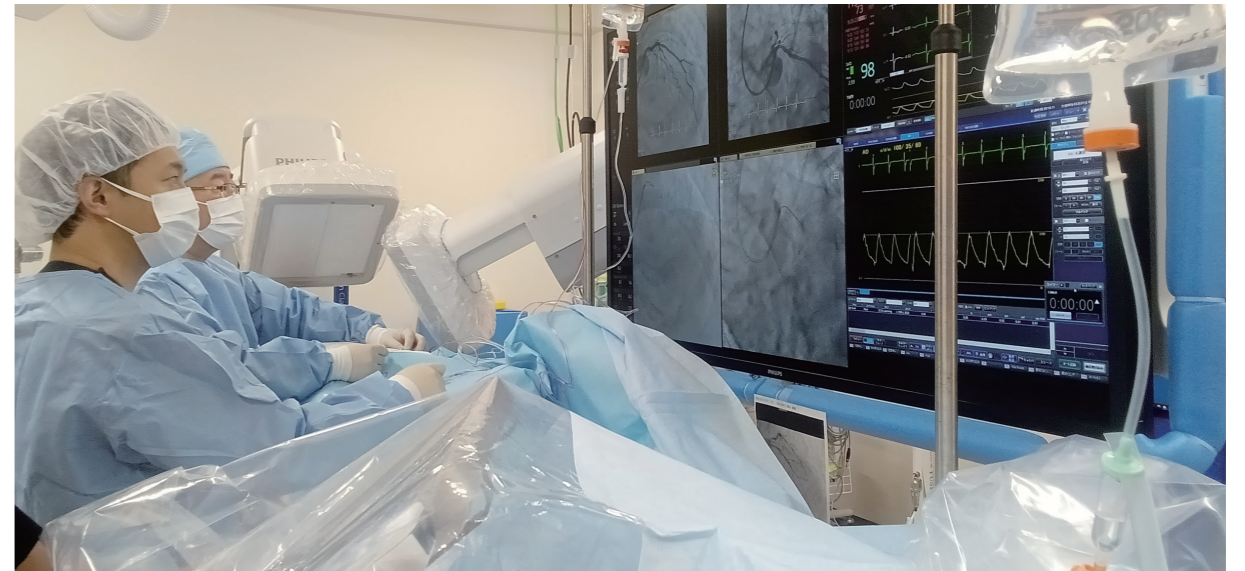


消化器・一般外科 山崎、中屋、若杉

令和7年 各診療科実績

| 診療科名 | 特に力を入れている手術(処置・症例)名/令和7年1月1日~12月31日までの実績 | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------|--------------------------------------|-------------------------|--|------------------------|----------------------|----|
| 消化器内科 | 内視鏡的大腸ポリープ切除術 | 324件 | 胆膵内視鏡(ERCP・EUS) | 109件 | 胃内視鏡的粘膜下層剥離術(胃ESD) | 9件 | | |
| 呼吸器・アレルギー内科 | 気管支鏡検査 | 31件 | 肺癌(化学療法症例) | 15例 | 喘息(生物学的製剤症例) | 7例 | | |
| 循環器内科 | 心臓カテーテル検査と冠動脈カテーテル治療と下肢血管内カテーテル治療 | 117件 | 地域医療への貢献 (①新入院②紹介③逆紹介) | ①501件 ②431件 ③431件 | 心不全診療 (①入院②うち再入院③当院再入院率) ※全国再入院率は29% | ①196件 ②25件 ③13%※ | 不整脈診療 (ペースメーカー治療) | 6件 |
| 内分泌・糖尿病内科※ | 甲状腺の結節穿刺細胞診 | 49件 | 間歇式スキャン式持続血糖測定器(isCGM) [令和7年3月末使用人数] | 26人 | ※令和7年4月1日~令和8年3月31日の実施件数 | | | |
| 脳神経内科 | 神経心理検査 | 177件 | MRI(VSRAD) | 206件 | 髄液検査 | 3件 | | |
| 消化器・一般外科 | 腹腔鏡下胃切除術(胃癌) | 4件 | 腹腔鏡下大腸切除術(結腸癌, 直腸癌) | 27件 | 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(鼠径ヘルニア) | 48件 | | |
| 整形外科 | 人工関節置換術(①膝、②股関節、③肩) | ①60件 ②30件 ③10件 | 関節鏡手術(①膝、②肩肘) | ①40件 ②70件 | 外傷手術 | 270件 | | |
| 皮膚科 | 陥入爪手術 | 49例 | 光線療法 | 56例 | 掌蹠膿疱症 | 29例 | | |
| 泌尿器科 | 経尿道的尿管結石レーザー砕石術 | 23件 | 経尿道的ソリウムレーザー前立腺蒸散術 | 16件 | 腹腔鏡下仙骨隆固定術 | 7件 | | |
| 脳神経外科 | 慢性硬膜下血腫 | 7件 | 急性硬膜下・硬膜外血腫 | 2件 | ハキム病(特発性正常圧水頭症) | 3件 | | |

MIDORI REBORN



上:循環器内科 検査風景 下:左から、循環器内科 中澤、横井、吉田、佐伯、放射線科 河合、川口、循環器内科 藤井

Contents

P1 MESSAGE

- 4年目の春、さらなる成長を目指して
- みどり市民病院の建替え計画について

P2 TOPICS

- 一 循環器内科からのごあいさつ
- 新しく頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を始めました

P3 INFORMATION

- 地域の拠点病院を目指して — 消化器・一般外科の取り組み —
- 令和7年 各診療科実績



4年目の春、さらなる成長を目指して

私共名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院は、急性期から回復期まで『治し支える医療』をワンストップで提供する地域貢献型大学病院として開院から4度目の春を迎えました。この間、地域医療機関・施設の皆さまには温かいご支援を賜りましたこと、改めて感謝申し上げます。

昨年度振り返りにおきまして外来診療部門では、1日平均外来患者数114%(%:対前年度)、紹介初診患者数110%、逆紹介患者数104%であり逆紹介数・紹介数比1.42とご紹介をいただいた多くの患者さんを継続し確実に地域へお戻りする事ができております。また、救急車応需数105%(2,300件超)となり地域救急医療へも開院より継続貢献させていただくことができました。放射線検査共同利用ではCT/MRI:95.8/52.6(件/月)(令和5年CT/MRI:79.7/48.6 令和6年CT/MRI:87.1/36.3(件/月))と造影CT検査への対応開始もありより多くのご依頼をいただきました。入院診療部門では新規入院患者数113%、手術件数114%で急性期病床稼働約9割と開院以来最多の患者さんにご入院加療を受けていただいております。

今年度は循環器内科増員によりカテーテルアブレーション不整脈治療の開始や緊急性の高い虚血性心疾患にも積極的に対応してまいります。整形外科では『みどり関節センター』(仮称)開設で肩肘から股関節までより多様な治療法のご提供を可能にいたします。泌尿器科では前立腺疾患に対する各種低侵襲治療法のご提供や女性尿失禁への骨盤底筋治療をさらに拡大してまいります。皮膚科では掌蹠膿疱症や形成外科疾患などに加え加齢性疾患に対するレーザー治療などより多様な疾患へ対応させていただきます。

昨今の厳しい医療状況ではありますが、公的病院として地域の皆さまの医療ニーズに確実に応えすると共に地域貢献型大学病院として安全でより高品質の医療をご提供してまいります。引き続きお力添えのほどをお願い申し上げます。



みどり市民病院 病院長
浅野 實樹
Miki Asano

みどり市民病院の建替え計画について



当院は、最も古い本館が昭和44年竣工(築57年)の病院であり、施設・設備の老朽化・狭あい化が進行しております。今後大学病院として安心安全で高度な医療を提供していくため、将来の「みどり市民病院」の整備に向けて、建て替え計画を進めてまいります。

昨年度は、新病院の基本的な方針、機能、施設規模等について計画をまとめてきました。新病院においては、緑区で今後も増加していく高齢者救急の受け皿としての役割をしっかりと果たしていくとともに、名鉄鳴海駅前の立地の利便性を活かして、働く世代が通勤途中にも利用しやすい環境を整備することにより、ワークライフバランスに資する予防医療を提供していく予定です。

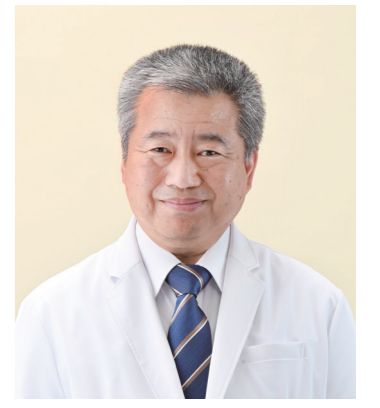
ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

— 循環器内科からのごあいさつ —

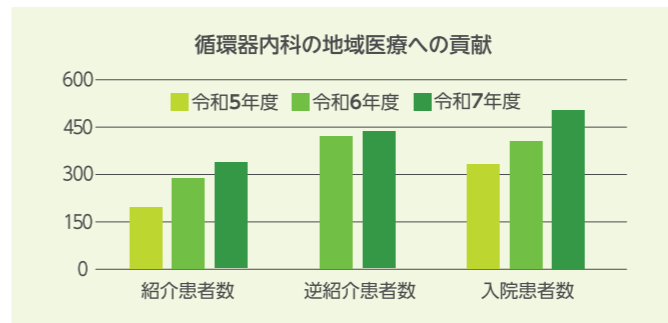
令和7年は年間330名もの患者さんをご紹介賜り、逆紹介431名、年入院501名(うち心不全196名、心不全再入院は25名13%:全国平均29%)、心臓カテーテル検査75例、冠動脈形成術(PCI)27例、下肢動脈血管内治療(EVT)15例、ペースメーカー手術6例を施行することができました。これもひとえに先生方のご指導の賜物と心より御礼申し上げます。

この4月からこれまでの常勤医師2名に加え、不整脈専門医1名を新たに迎え、新しく導入したバイプレーン心血管撮影装置を活用して、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を開始しました。

胸背部痛、息切れ、動悸、浮腫、発熱、心電図異常、心拡大、心雑音、CKD等を心疾患に合併した患者さん、BNP/NT-proBNP高値の患者さん、日常生活に支障があり在宅が難しい患者さん、診断治療に難渋する患者さん、時間外でも緊急でも当科にご紹介を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。これまで通りお待たせすることなく、地域の皆さまと先生方の診療のお役に立てるよう、最善を尽くしてまいります。これからもご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



循環器内科部長
佐伯 知昭
Tomoaki Saeki

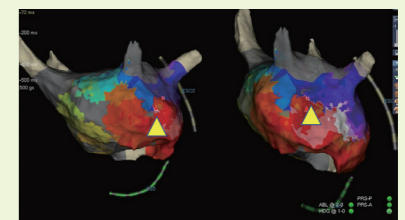
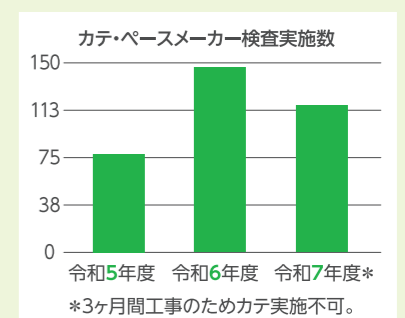


新しく頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を始めました

これまで3年間、胸痛や心不全に対する心臓カテーテル検査(冠動脈造影:CAG)と経皮的冠動脈形成術・ステント留置術(PCI)、間欠性跛行や安静時痛、潰瘍、壊疽を特徴とする包括的高度慢性下肢虚血に対して、バルーンやステントで下肢動脈の狭窄・閉塞を拡張する血管内治療(EVT)、そして有症候性徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療を行ってきました。

令和8年3月には、新しくバイプレーン心血管撮影装置を導入しました。この装置は2方向から同時に血管を撮影・透視できるため、短時間で高精度な3D画像が得られ、より迅速な診断が可能となります。また、複雑な手技における負担を軽減し、撮影回数と造影剤使用量をおよそ半分に抑えることができるため、狭心症、下肢閉塞性動脈硬化症、不整脈に対する精密なカテーテル治療が可能となりました。

そしてこの4月より、有症候性再発性頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を開始し、循環器診療のさらなる発展に取り組んでまいります。



カテーテルアブレーション:切除後の左心耳瘻痕を時計方向に旋回する心房頻拍の一例